

公益社団法人 日本建築積算協会・情報委員会

「BIM を活用した積算・コストマネジメントの環境整備」協議会  
(建築BIM推進会議 第4部会)



BSIJマスコットキャラ宝積(ほづみ)さん

第7回(令和4年11月24日 13:00~15:00)

コストがわかれば 建築が見える!

 公益社団法人日本建築積算協会  
The Building Surveyor's Institute of Japan (BSIJ)

# 本日の予定

13:00～	開会(事務連絡)
13:05～13:30	官庁営繕部資料説明(国土交通省 大臣官房 営繕積算企画調整室長 小澤様)
13:30～13:45	国交省BIMモデル事業(先導型)と部会4の連携について(フジキ建築 谷藤様)
13:45～14:00	トピック:最新のBIM事情:英国出張報告等(芝浦工業大学建築学部教授 志手様)
14:00～14:05	今年度のBSIJ協議会(部会4)の活動について(日本建築積算協会 森谷)
14:05～14:45	情報委員会分類体系WGの活動報告(ターナー&タウンゼント 村瀬) 各作業チームの報告(安藤・間 田中:三菱地所設計 須貝:新菱冷熱 谷内)
14:45～15:00	質疑応答および事務連絡等
15:00	閉会

# 官庁営繕部資料説明

国土交通省 大臣官房 官庁営繕部 計画課 営繕積算企画調整室 室長 小澤 剛 様

# 官庁営繕におけるBIM活用の検討状況

---

### ①官庁営繕事業におけるBIMモデルの作成及び利用に関する ガイドライン

○BIMモデルを作成／利用する際の留意事項集

発注者・受注者が参照するBIM活用の「メニュー」として改定（役割を明確化）

### ②官庁営繕事業におけるEIR※（例）を作成 ※発注者情報要件

※今後は、発注者指定によるBIM活用の考え方「EIR作成の手引き（仮称）」  
として整理

発注者が参照する資料として新規作成

### ③官庁営繕版BIMワークフロー

○官庁営繕事業の特性を考慮したワークフロー

発注者・受注者が参照する資料として新規作成

## 官庁営繕事業における一貫したBIM活用に関する検討会

### 目的

官庁営繕事業における設計から施工、維持管理まで一貫したBIMの活用促進に向け、学識経験者及び業界団体からの意見等を踏まえた課題の把握及び今後の方策の検討を行う。  
(令和4年度設置)

### 委員・オブザーバー

座長	蟹澤 宏剛	芝浦工業大学	建築学部 建築学科 教授
	安野 芳彦	公益社団法人	日本建築士会連合会
	竹馬 章二	一般社団法人	日本設備設計事務所協会連合会
	曾根 巨充	一般社団法人	日本建設業連合会
	脇田 明幸	一般社団法人	全国建設業協会
	三村 陽一	一般社団法人	日本電設工業協会
	古島 実	一般社団法人	日本空調衛生工事業協会
	谷藤 正樹	公益社団法人	日本建築積算協会
	清水 達広	一般社団法人	日本建築積算事務所協会
	繁戸 和幸	一般社団法人	日本建築士事務所協会連合会
	岡本 尚俊	公益社団法人	日本建築家協会

### ○昨年度作成したEIR（例）を踏まえ、EIRの作成手法を検討

- ・ 試行等で把握された課題等を整理
- ・ 発注者におけるEIRの作成手法を検討

### ○BIM連携積算※の検討に着手 ※官庁営繕事業におけるBIMデータを活用した工事費積算

- ・ 積算等でのBIMの利用実態等を調査
- ・ 活用の効果や課題等を整理
- ・ 積算等におけるBIMの効果的な活用方法等を検討



検討会での審議（意見）を反映  
試行事業で把握された内容の反映

### 成果

- 官庁営繕におけるEIR作成の手引き（仮称）の作成
- 官庁営繕におけるBIM連携積算の試行要領（案）の作成

# 国交省BIMモデル事業との連携について

株式会社フジキ建築事務所代表取締役 谷藤正樹 様

## 4-2. 積算手法の標準化

令和4年度 BIMを活用した建築積算・  
維持管理プロセス円滑化モデル事業  
(先導事業者型)

Uniclassを付与した実施設計  
BIMモデルによる概算コスト手法の検証

(株)フジキ建築事務所・(株)奥野設計・協栄産業(株)

LOCの検討と 令和4年BIMモデル事業との共同検討

LOCシート (仮)		
概算コード	0701-30-※※	
Uniclass	EF	※※
	Ss	※※
	Pr	※※

### 本検証の概要

実施設計フェーズのBIMモデルで、繰り返し概算コストを算出するひとつの事例検証を行い、以下について報告する。

- ・ 日本建築におけるBIMモデルのオブジェクトのUniclassマッチング率
- ・ Uniclass付与に必要な作業人工、必要スキル
- ・ UniclassとRIBC2のマッチング率
- ・ UniclassとRIBC2（や独自の単価マスター）によってBIM積算が可能か
- ・ Uniclassを活用したBIM積算の一般化、普及に向けた課題

本検証では「Uniclass（日本語版）Web検索システム」  
を使ってオブジェクトにコードをあてる  
今後、LOCシートによってUniclass付番の標準化が期待される

BIMオブジェクト 属性情報

Uniclass Code

Uniclass Code

RIBC2 Code

RIBC2 Code

材料単価

▲ 独自の単価コード（単価マスター）とマッピングすることで、活用の幅が広がる



▲ BIM を構成する各オブジェクトにUniclassを付与

### 共同検討 (案)

- ・ 整備されたUniclassコードを活用した概算事例から、Uniclassコードの有用性を検討する。
- ・ 実施設計段階におけるLOCの実用性、普及に向けた課題を抽出し対策を検討する。
- ・ @ @ @

Topic

# 最新のBIM事情：英国出張報告等

芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授 志手 一哉様

# 情報委員会分類体系WGの活動報告

BSIJ協議会(部会4)副座長 兼 情報委員会分類体系WG部会長 村瀬 弘幸

## 各チームの活動報告

翻訳チーム代表 田中 洋介

LOCチーム代表 須貝 成芳

設備チーム代表 谷内 秀敬

広報チーム担当 森谷 靖彦

# 翻訳チーム2022年度活動(中間)報告

## i Uniclass2015最新版対応

Jan(175項目)、April(299項目)、July(173項目)  
 updateに関する翻訳・意識完了  
 現在は、Oct update (211項目) の翻訳中  
 (その後、テーブル間整合性確認調整)  
 ➤ 今年度内に更新版を公開予定

## ii パブリックコメント追加 (意識修正案)の反映

## iii 専門団体との連携(今後)

(建築のみならず、土木関連項目の精査・意見交換等も必要)

## IV 日本語版Uniclass2015検索システム整備 (広報チーム協業)

ID	Code	Group	Sub group	Section	Title	機械翻訳2022/11/5GT	BSU_2022年6月 投稿反映Verd.31	BSU_2022年8月(1月4月7月+10月投稿反映)意	Jan2022updt	April2022updat	Jul2022Ju	Oct2022update
3000	2990 EF_20_50_07	20	50	07	Bearings	ベアリング						
3001	3000 EF_20_50_10	20	50	10	Bridge decks	ブリッジデッキ						
3002	3001 EF_20_50_64	20	50	64	Piers	橋脚						
3003	3002 EF_20_50_82	20	50	82	Span	スパン						
3004	3003 EF_25	25			Wall and barrier elements	壁と障壁の要素						
3005	3004 EF_25_10	25	10		Walls	壁						
3006	3005 EF_25_10_25	25	10	25	External walls	外壁						#New
3007	3006 EF_25_10_30	25	10	30	Free-standing walls	自立壁						#New
3008	3007 EF_25_10_40	25	10	40	Internal walls	内壁						#New
3009	3008 EF_25_30	25	30		Openings	開口部						#Classification cha
3010	3009 EF_25_30_25	25	30	25	Doors	ドア						#New
3011	3010 EF_25_30_33	25	30	33	Gates	ゲート						#New
3012	3011 EF_25_30_36	25	30	36	Hatches	ハッチング						#New
3013	3012 EF_25_30_45	25	30	45	Louvers	ルーブル						#New
3014	3013 EF_25_30_95	25	30	95	Vents	ベント						#New
3015	3014 EF_25_30_97	25	30	97	Windows	ウィンドウズ						#New
3016	3015 EF_25_55	25	55		Barriers	障壁						
3017	3016 EF_25_55_28	25	55	28	Fences	フェンス						#New
3018	3017 EF_25_55_30	25	55	30	Fixed barriers	固定障壁						#New
3019	3018 EF_25_55_59	25	55	59	Opening barriers	障壁を開く						#New
3020	3019 EF_30	30			Roofs, floor and paving elements	屋根、床、舗装要素						
3021	3020 EF_30_05	30	05		Building levels	建物のレベル						#New
3022	3021 EF_30_05_06	30	05	06	Basement level	地下階						#New
3023	3022 EF_30_05_34	30	05	34	Ground level	階						#New
3024	3023 EF_30_05_51	30	05	51	Mezanine level	中二階						#New
3025	3024 EF_30_05_93	30	05	93	Upper level	上位レベル						#New
3026	3025 EF_30_10	30	10		Roofs	屋根						
3027	3026 EF_30_10_04	30	10	04	Arched roofs	アーチ型の屋根						#New
3028	3027 EF_30_10_23	30	10	23	Domed roofs	ドーム屋根						#New
3029	3028 EF_30_10_30	30	10	30	Flat roofs	平屋根						#New
3030	3029 EF_30_10_64	30	10	64	Pitched roofs	傾斜屋根						#New
3031	3030 EF_30_20	30	20		Floors	床						
3032	3031 EF_30_25	30	25		Ceilings and soffits	天井と軒裏						
3033	3032 EF_30_25_12	30	25	12	Ceilings	天井						#New
3034	3033 EF_30_25_80	30	25	80	Soffits	軒裏						#New
3035	3034 EF_30_30	30	30		Decks	デッキ						
3036	3035 EF_30_60	30	60		Pavements	舗装						
3037	3036 EF_30_60_60	30	60	60	Pedestrian pavements	歩行者用舗装						#Classification cha
3038	3037 EF_30_60_95	30	60	95	Vehicular pavements	車両舗装						#Classification cha

# BSIJ協議会(部会4) 2022年度活動予定 (LOCに関する箇所を抜粋)

- ✓ • より具体的なLOC(Level of Costing)や、コストマネジメントにおける数量拾い、値入の考え方についての整理とユースケースの作成
- ✓ • Uniclass2015の各テーブルに紐づく構成群を合成単価として整備し、概算業務に役立てるためのパターン例示等の作成

## a. 昨年度までの積み残しや備忘録など (#ALL)

### i. 各ステージで推奨すべきLOCレベル感の整理

LOCなのでレベルを示すべき。いままでそれができていない。

国交省ガイドライン改訂版、設計三会ガイドライン第1版を参照

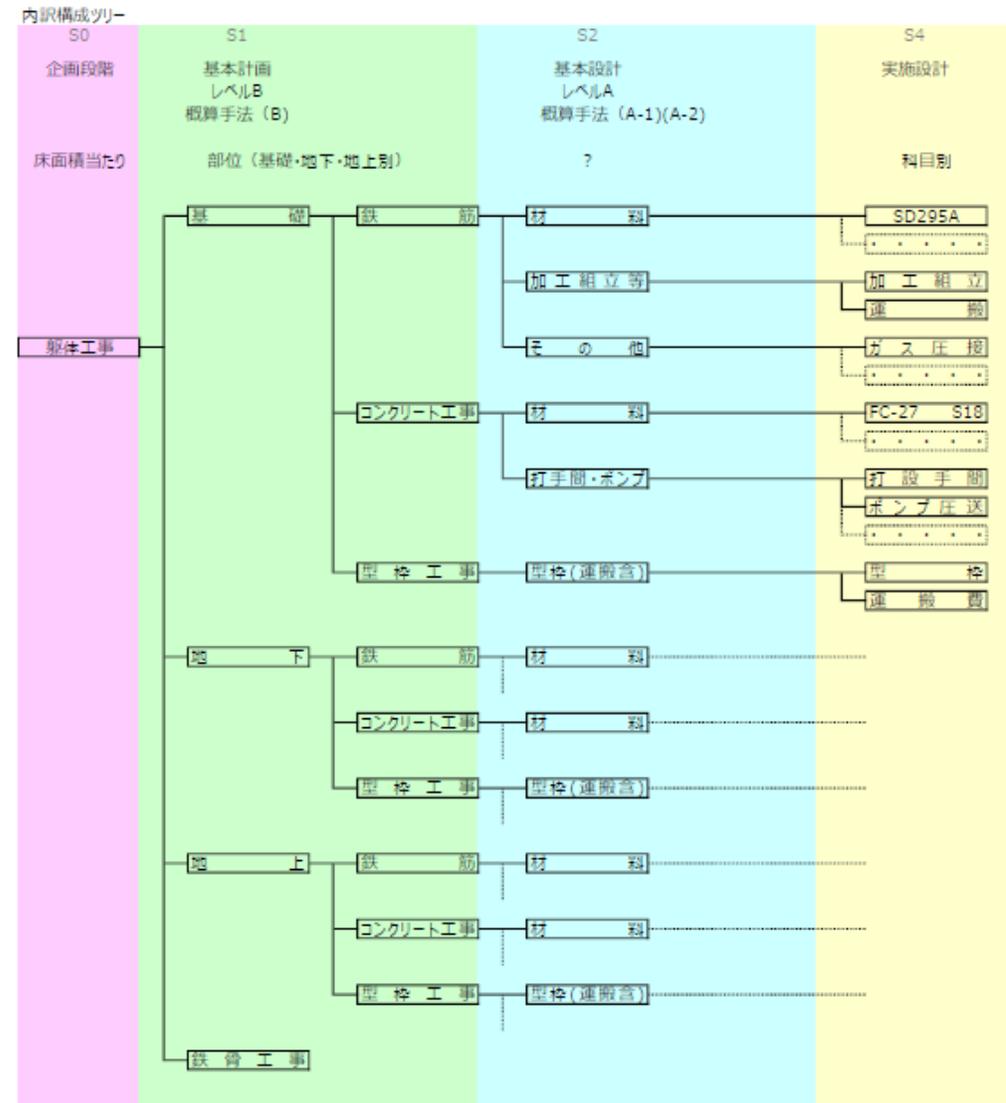
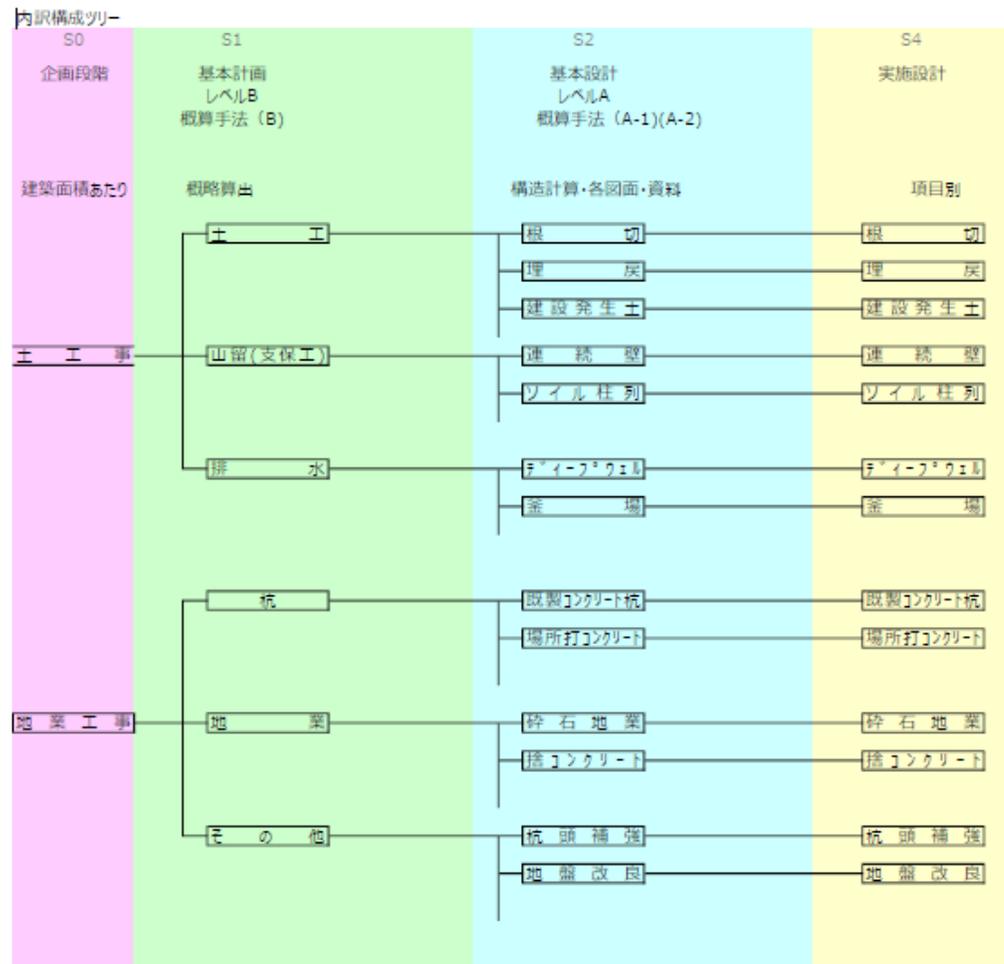
し、それぞれの定義を再確認・再定義する必要がある。グレー

本に設計与件の記述があるので、これも参照し整備？カテゴリ

と進度を分けて考える必要があり。BSIビルを基軸にアウトプット

とインプットを進度によって整理すべき。

# 昨年度振り返り — 設計フェーズの進行に伴う概算構成の変化の確認







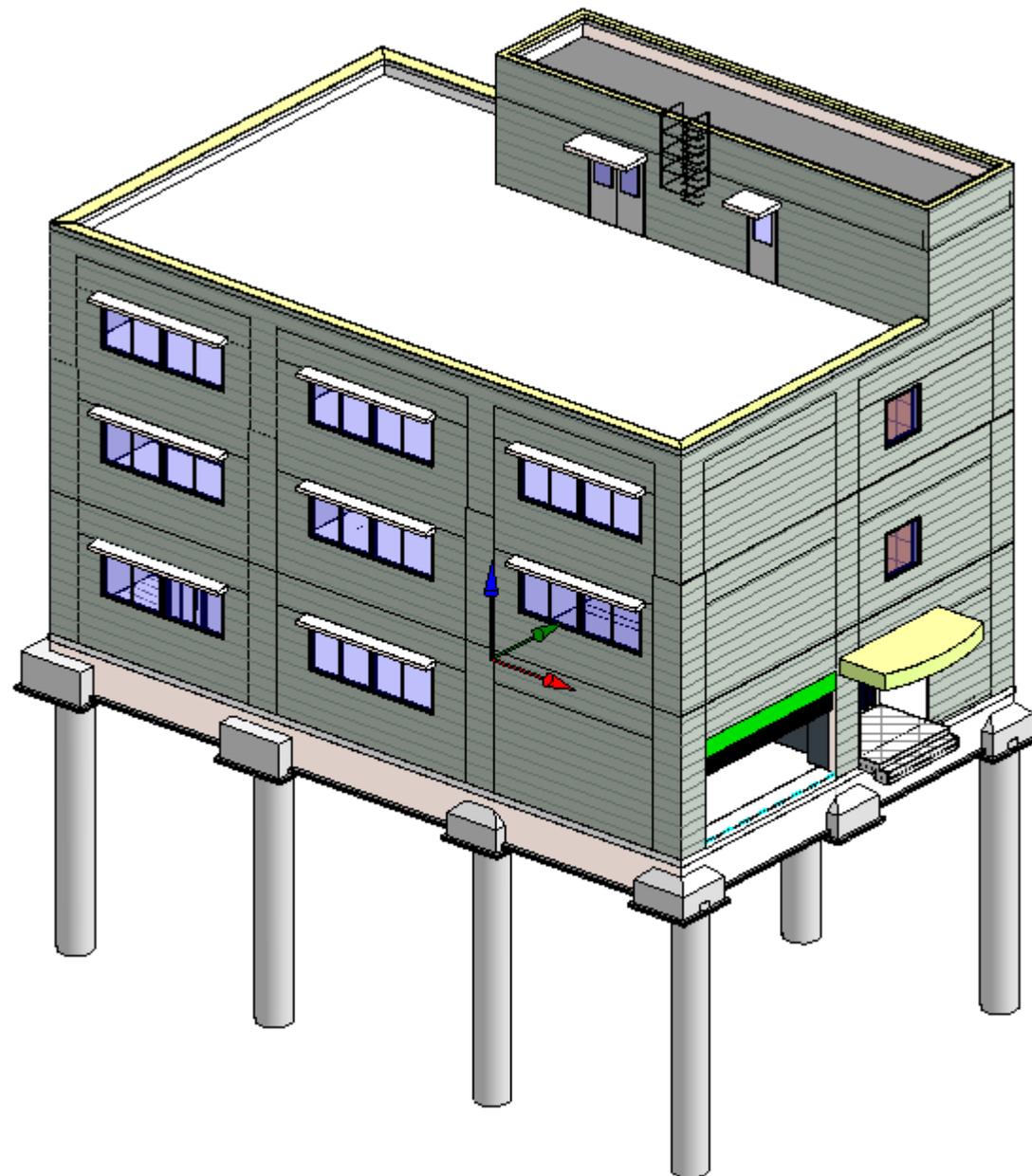
# BSIビルについて

積算教材用として積算協会にて作成した架空のビル。

2次元図面、内訳明細書、BIMデータあり。

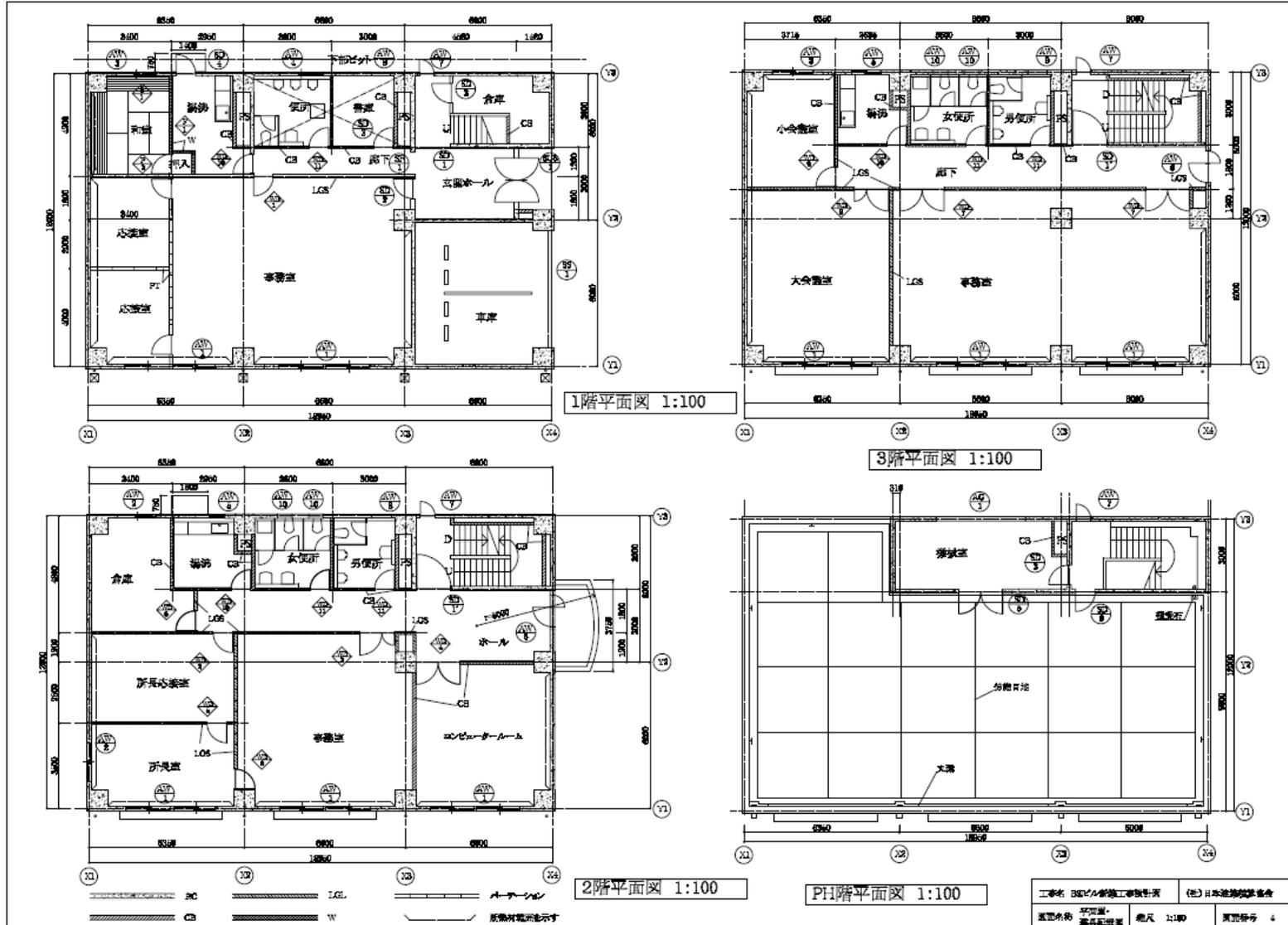
- a 工事名称 BSIビル新築工事
- b 構造規模 鉄骨鉄筋コンクリート造 3階建
- c 建築面積 230.64㎡
- d 延床面積 717.19㎡
- e 階別面積

1階	2階	3階	PH階	合計
223.66	227.40	227.40	38.73	717.19

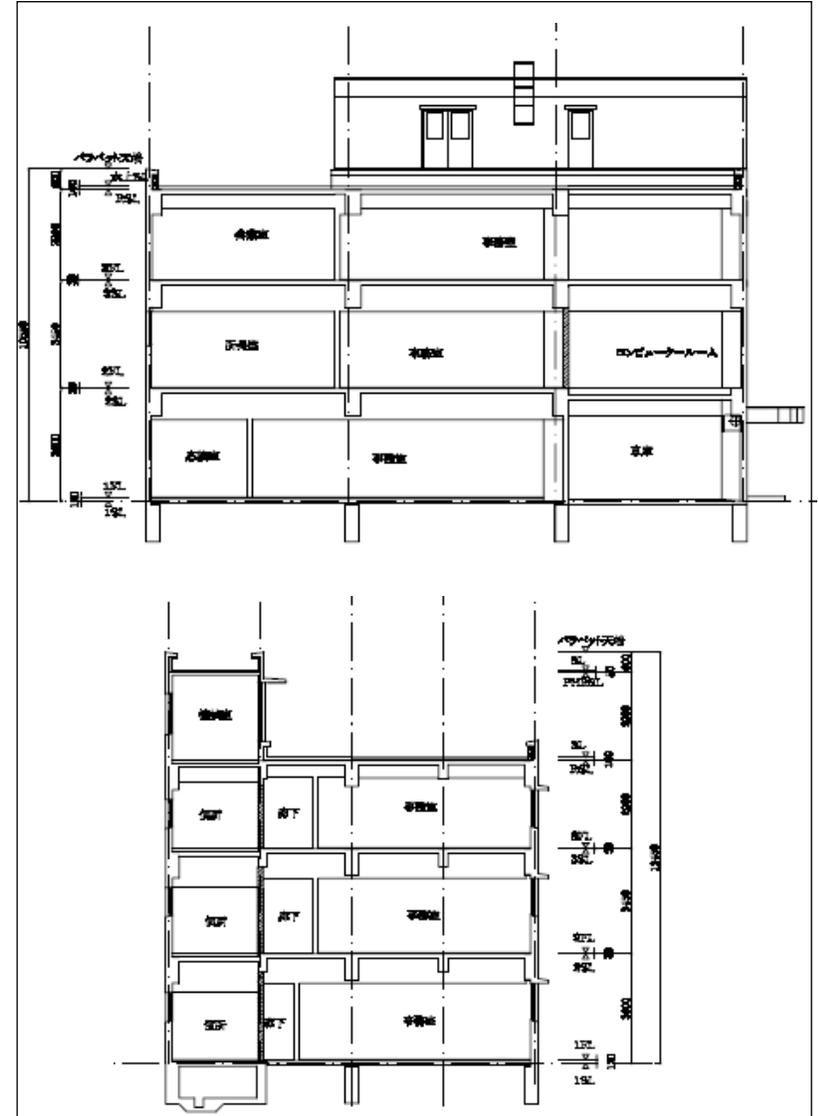


# BSIビルについて

## 平面図 (1～4階)

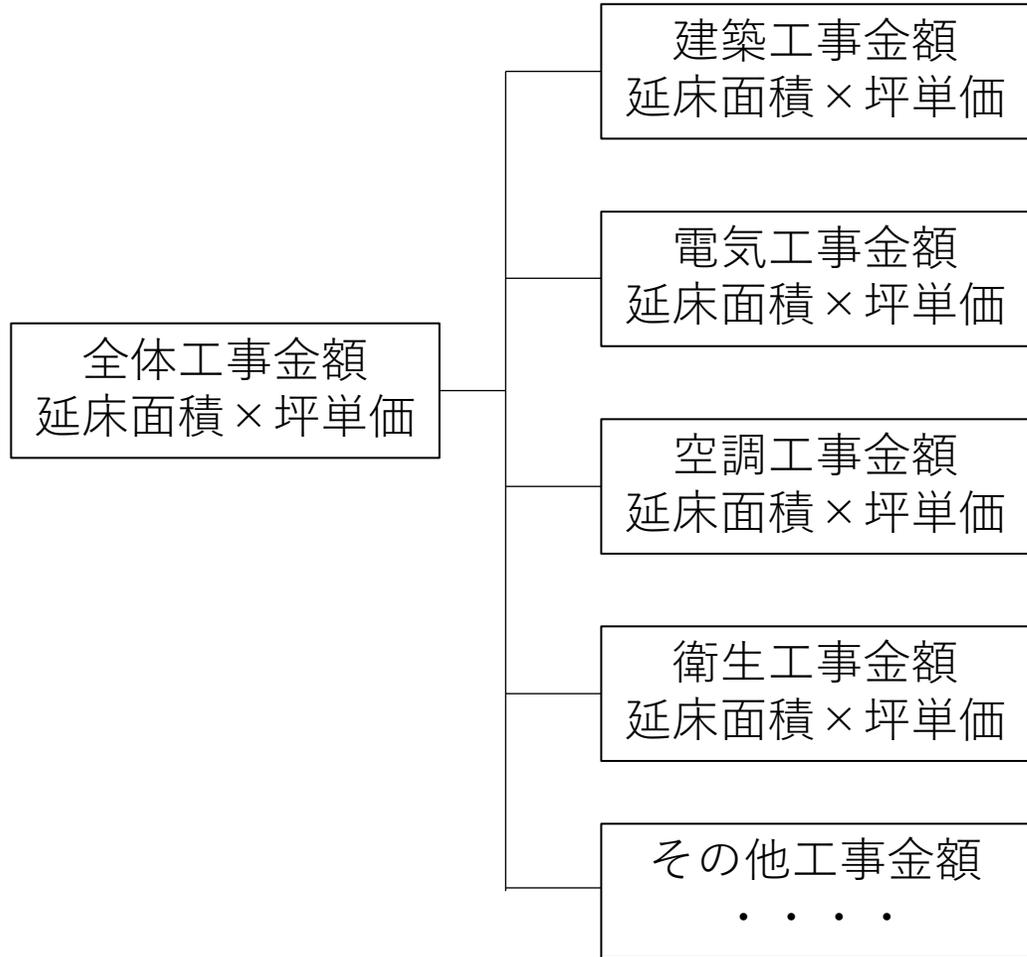


## 断面図



# 段階別概算構成イメージ

内訳構成の流れをツリー形式で整理し各項目の情報の細分化が行われる過程を可視化したもの。  
 (右表は内装工事部を抜粋)



S0 企画段階	S1 基本計画 レベルB 概算法 (B)	S2 基本設計 レベルA 概算法 (A-1)(A-2)	S4 実施設計
内部仕上	間仕切 区画、ゾーン区分 間仕切種別図	間仕切	LGS 下地 〔開口補強〕 下地ボード
	部屋面積 (ゾーン面積)	各室仕上	防 水 左 官 OA フロア 表面仕上
		床 仕 上	幅 木 壁 仕 上
			左 官 表面仕上
		廻 縁	天井仕上
			LGS 下地 〔開口補強〕 〔点検口〕 下地ボード 表面仕上
	内部開口部 内部開口部計画	木製建具 鋼製建具 軽量鋼製建具 ステンレス製建 シャッター パーティション等 エンジン装置	各種建具 ガラス 防 水 金 属 左 官 塗 装
	雑 工 事	雑 工 事	〔各科目〕
	その他(率)	その他(率)	〔各科目〕

## 各設計段階における、下記3点に基づいた概算手法

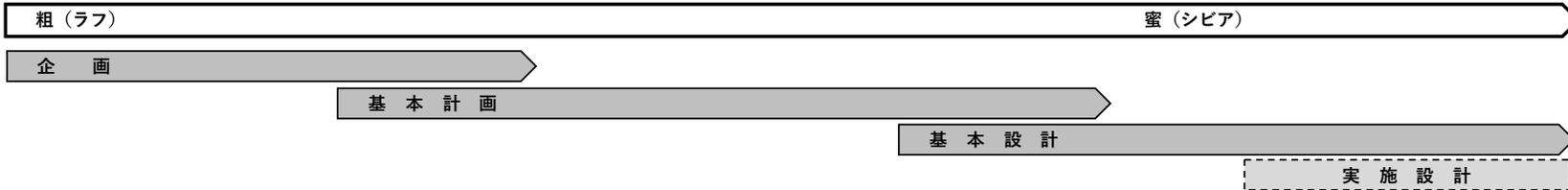
- ・ 各設計段階における概算工事費内訳の概算細目が設定されている。
- ・ 概算細目の設定に伴い数量を拾う方法が設定されている。
- ・ 概算細目の設定に伴い、その概算細目の単価が設定されている。

### ※ LOD 及び LOI の現時点での定義・位置づけ

- ・ 「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン（第2版）によると、LOD(Level of detail/Level of development)とLOI(Level of information)は、今後の継続課題として整理し、継続的な議論や検証の対象とされている。
- ・ 設計三会WFで、設計段階毎のオブジェクト別モデリングガイドとして、LOD/LOIそのものでは無いが纏められている。

# LOCテーブル

✓ ・ より具体的なLOC (Level of Costing) や、コストマネジメントにおける数量拾い、値入の考え方についての整理とユースケースの作成



工 事 科 目		概算 (D)	概算 (C)	概算 (B)	概算 (A)
共通仮設		坪単価×延床 or 工事比率			
直接仮設					
土工	土留	坪単価×延床 など			
地業		面積 (建築or延床など) × 単価			
杭工事					
躯体	コンクリート	面積×単価 (基礎、地下、地上別?)			
	鉄筋				
	型枠				
	鉄骨				
	その他				
外部仕上	外部仕上	床面積×坪単価 or 見付面積×㎡単価	見付面積×㎡単価 など	ALC-(想定)面積×単価 PC-(想定)面積×単価 ECP-(想定)面積×単価	ALC-面積×単価 PC-面積×単価 ECP-面積×単価
	外部建具		開口面積×単価 など	ACW-(想定)面積×単価 AW-(想定)面積×単価 SUD-(想定)箇所数×単価	ACW-面積×単価 AW-面積×単価 SUD-箇所数×単価
	屋根工事		屋根面積×単価 など	防水-(想定)面積×単価 立上り関係-(想定)長さ×単価 目隠しルーバー-(想定)面積×単価	防水-面積×単価 立上り関係-長さ×単価 目隠しルーバー-面積×単価
	その他		想定面積×単価 など	ポーチ、バルコニー他	ポーチ、バルコニー他
内部仕上	間仕切	床面積×坪単価	床面積×坪単価 <b>LOCシート例</b> or 間仕切面積×㎡単価	軽鉄ボード：面積×単価 ALC、ECP：面積×単価	軽鉄ボード：面積×単価 開口補強：長さ×単価 ALC、ECP：面積×単価 開口補強：長さ×単価
	内部仕上		(全体orエリア別) 床面積×坪単価	事務室：床面積 (※) × 単価 (※) エリア別 or 部屋別 トイレ：床面積×単価	床：面積×単価 巾木：長さ×単価 壁仕上：面積×単価 廻縁：長さ×単価 天井：面積×単価 ・・・
	内部建具		開口面積×単価 or 建具個所×単価 など	SD-(想定)箇所数×単価 AW-(想定)面積×単価 SUD-(想定)箇所数×単価	SD-箇所数×単価 AW-面積×単価 SUD-箇所数×単価
			その他	断熱材、地下二重壁、ブラインドボックス ・・・	
	外構		対家面積×単価		
諸経費	工事費率				
設計予備費	?				

# LOCシート

✓ ・ より具体的なLOC (Level of Costing) や、コストマネジメントにおける数量拾い、値入の考え方についての整理とユースケースの作成

属性

細目の範囲

INPUT  
情報

||  
LOCの成立に  
必要な情報

概算コード	0701-10-※※	概算内容	内装-間仕切工事	細目	
Uniclass2015	EF ※※※※	概算フェーズ	C	数量 (㎡) × 単価 (円/㎡) = 金額	
	Ss ※※※※		S0	数量	単価
	Pr ※※※※		基本計画 (前半)	間仕切面積(階高)	合成単価

■概要	内部の間仕切り工事を、詳細な種類の別無く、面積×単価で計上。
■項目に含むもの	開口補強、
■項目に含まないもの	建具、壁面仕上、

項目 (*は三会WF記載項目)	概算フェーズCでの必要情報	図面情報	三会WF(S0)	備考・前後フェーズ項目	
形状 情報	設置位置 *	○	○記載有	[前フェーズ項目]	
	高さ *	○ (階高より想定)	○拾い可	内装仕上 ※※※※	
	厚さ *		×不明		
	壁種(内部/外部) *		×図面から判断		
モ ノ 情 報	壁種(LGS/ALC/ECP/CB/その他)		×不明	-	
	仕上材の名称 *		×無し		
	仕上げ材のメーカー名 *		×無し		
	断熱材の名称 *		×無し		
	断熱材のメーカー名 *		×無し		
断熱材有害性の評価 *		×無し			
仕 様 情 報	壁符号 *		×無し	-	[次フェーズ項目]
	遮音性能 *	○ (図面より想定)	×不明 要設計者へ確認		乾式間仕切工事 ※※※※
	防火性能 *	○ (図面より想定)	×不明 要設計者へ確認		組積間仕切工事 ※※※※
	断熱性 *	○ (図面より想定)	×不明 要設計者へ確認		
	耐火等級 *		×無し		
	認証番号 *		×無し		
備考	開口補強		無し		

# 「合成単価」について

- ✓ ・ Uniclass2015の各テーブルに紐づく構成群を合成単価として整備し、概算業務に役立てるためのパターン例示等の作成

## ※内装一間仕切り工事抜粋

S0, 1, 2, 4項目及びS4Uniclass2015結合表										
科目名	中科目名称	部位		名称	摘要	単位	Uniclass2015/EF	Uniclass2015/S	Uniclass2015/P	
S0	S1	S2	S4							
内装	間仕切					m2				
	間仕切					m2	EF_25_10			
	軽鉄間仕切（性能）					m2	EF_25_10	Ss_25_10_30_35		
	軽鉄間仕切（一般）					m2	EF_25_10	Ss_25_10_32_45		
	（金属）軽鉄間仕切 65型 @450					m2	EF_25_10	Ss_25_10_32_45	Pr_25_71_35_65	
	（金属）軽鉄間仕切用開口補強 65型用					m	EF_25_10	Ss_25_38	Pr_35_31_66_70	
	コンクリートブロック					m2				
	（組積）コンクリートブロック T120 空洞ブロック16 塗下					m2	EF_25_10	Ss_25_13_50_56	Pr_20_93_52_35	
	木製間仕切					m2				
	パーティション					m2				

# 「合成単価」について

- ✓ ・ Uniclass2015の各テーブルに紐づく構成群を合成単価として整備し、概算業務に役立てるためのパターン例示等の作成

※内装一間仕切り工事抜粋

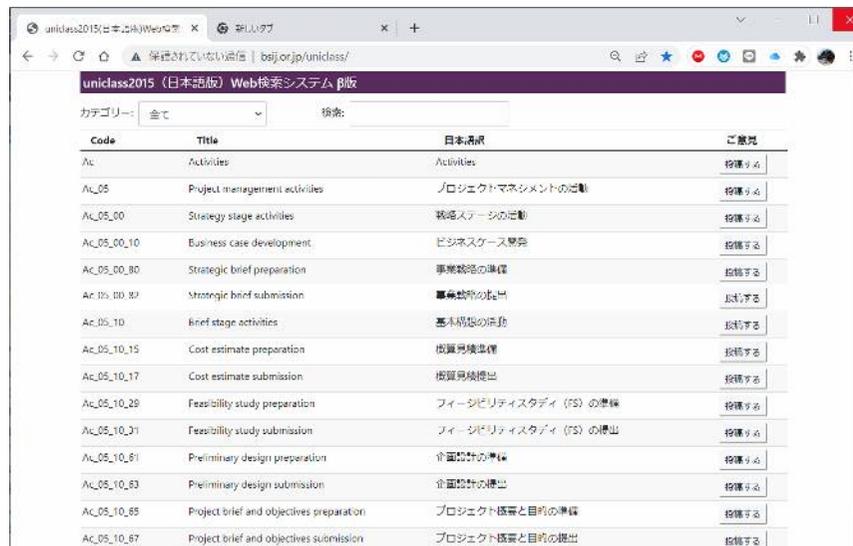
S0, 1, 2, 4項目及びS4Uniclass2015結合表

科目名称	中科目名称	部位	名称	摘要	単位	Uniclass2015/EF	Uniclass2015/S	Uniclass2015/P
S0	S1	S2	S4					
内装					m2			
	間仕切				m2	EF_25_10		
			軽鉄間仕切 (性能)		m2	EF_25_10	Ss_25_10_30_35	
			軽鉄間仕切 (一般)		m2	EF_25_10	Ss_25_10_32_45	
			(金属) 軽鉄間仕切	65型 @450	m2	EF_25_10	Ss_25_10_32_45	Pr_25_71_35_65
			(金属) 軽鉄間仕切用開口補強	65型用	m	EF_25_10	Ss_25_38	Pr_35_31_66_70
			コンクリートブロック		m2			
			(組積) コンクリートブロック	T120 空洞ブロック16 塗下	m2	EF_25_10	Ss_25_13_50_56	Pr_20_93_52_35
			木製間仕切		m2			
			パーティション		m2			

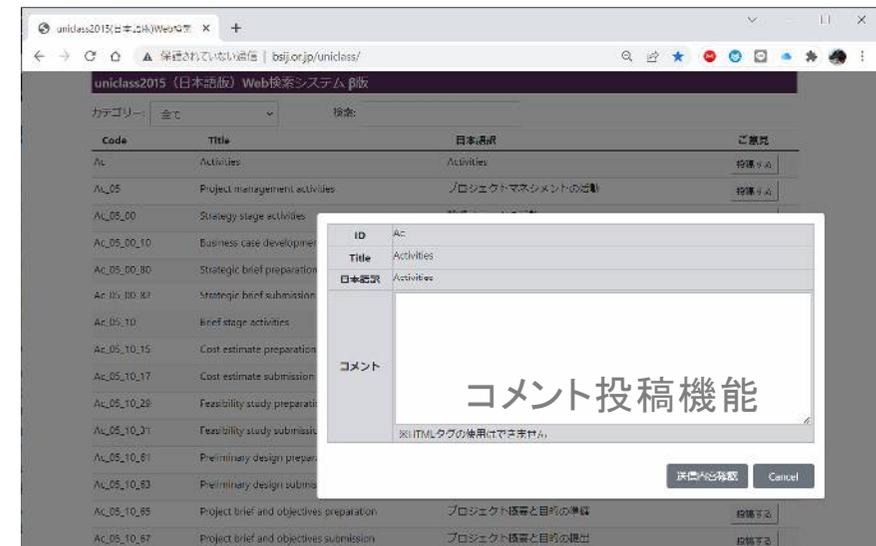
がグルーピング (= 「合成」) されて、の項目となる。

# 広報チーム2022年度活動報告(中間報告)

- Uniclass日本語版Web検索システム(通称: uniclass-JP)
  - NBS最新データへの更新 → 翻訳チームとの連携
  - 投稿コメントへの対応 → **みなさまのご協力(確認 & 投稿)をお願いいたします!**
  - 使い勝手の向上 → New や Change など、新規追加項目や変更項目の可視化対応
  - (予定)日本では使わないと思われる項目の投票機能の実装



Code	Title	日本語訳	ご意見
Ac	Activities	Activities	投票する
Ac_05	Project management activities	プロジェクトマネジメントの活動	投票する
Ac_05_00	Strategy stage activities	戦略ステージの活動	投票する
Ac_05_00_10	Business case development	ビジネスケース開発	投票する
Ac_05_00_80	Strategic brief preparation	事業戦略の準備	投票する
Ac_05_00_80	Strategic brief submission	事業戦略の提出	投票する
Ac_05_10	Brief stage activities	基本段階の活動	投票する
Ac_05_10_15	Cost estimate preparation	概算見積り準備	投票する
Ac_05_10_17	Cost estimate submission	概算見積り提出	投票する
Ac_05_10_29	Feasibility study preparation	フィージビリティスタディ (FS) の準備	投票する
Ac_05_10_31	Feasibility study submission	フィージビリティスタディ (FS) の提出	投票する
Ac_05_10_61	Preliminary design preparation	企画設計の準備	投票する
Ac_05_10_63	Preliminary design submission	企画設計の提出	投票する
Ac_05_10_85	Project brief and objectives preparation	プロジェクト概要と目的の準備	投票する
Ac_05_10_87	Project brief and objectives submission	プロジェクト概要と目的の提出	投票する



Comment submission dialog box:

ID	Ac
Title	Activities
日本語訳	Activities
コメント	<input type="text"/>

※ HTMLタグの活用はできません。

投票/コメントを保存 Cancel

## 広報チーム2022年度活動(今後の予定)

- BSIJ情報委員会(BSIJ協議会)リアル型シンポジウム開催決定！
  - タイトル:ターゲットバリューデザインへ(BSIJ情報委員会成果報告)
  - 日時:2023年2月28日(火)午後
  - 場所:建築会館ホール(JR田町駅/都営地下鉄三田駅(浅草線/三田線)徒歩3分)
  - 参加費:有料(ご参加の皆様にご負担いただきたくお願い申し上げます)
    - 司会:渡辺さき(理系女子Youtuber : <https://it-sukima.com/> )
    - (1) 開催挨拶:日本建築積算協会 森谷 靖彦
    - (2) 特別講演:(演者交渉中)
    - (3) 基調講演:芝浦工業大学建築学部 建築学科 教授 志手 一哉
    - (4) 情報委員会成果報告(情報委員会メンバー 各位)
    - (5) 質疑応答(聴講者とのディスカッション)
    - (6) 閉会挨拶 日本建築積算協会前田 伸子

詳細は近日中に積算協会HPにて!

# 2022~2023年度活動予定

BSIJ情報委員会 & BSIJ協議会

## 部会4の活動報告および活動予定(建築BIM推進会議に2022年3月16日提出資料)

部会4	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)
各年度の 実施内容 (概要)	国外における分類体系の翻訳と内容の整理、国内分類体系の素案策定とモデル事業への適用	他の部会と連携し、モデル事業に適用した結果を踏まえた実践的な分類体系の策定を行う	国交省や他の部会、関連団体等と連携し、活動成果を市井に普及させるための活動を行う	仕様書作成ソフトウェアやそれに代替する分類体系入力支援ソフトウェアなどの検討を行う
実施内容 (詳細)	分類体系の翻訳と内容の整理を行い、業務と照らし合わせた上での問題点等を整理した Uniclass2015と概念的分類との関係を取りまとめ、モデル事業(過去の実案件)に適用し、課題の抽出と体系の見直しを行った	国際的協調のための建築分類コード体系の翻訳と改訂更新対応 建築分類コード体系の対応表作成とコスト概算手法の整理 設備分野における既存の分類体系の事例収集と建築分類コード体系を用いたコスト概算手法の整理 分類体系を利用した概算手法の活用資料の試作	国際標準に則ったBIMモデルの確定と普及啓蒙活動の展開 より具体的なLOCやコストマネジメントにおける数量拾い、値入の考え方についての整理 Uniclass2015の各テーブルに紐づく構成群を合成単価として整備し、概算業務に役立てるためのパターン例示等の作成	BIMオブジェクトとDOI、GUIDとの紐付けや、IFCやCDEなどデータ環境との相互リンク思想、CI-NET分類、修繕計画用BELCA分類やIDEAライフサイクルアセスメント分類など社会基礎情報としての活用を検討する
成果・目標  (2020・2021は実績、 2022以降は目標)	Uniclass2015をベースとした分類体系標準案の策定を行い、モデル事業を設定して分類体系の調査と検討を行った 日本でUniclass2015を活用するための助言や支援を目的とした協定を、英国NBSと積算協会で締結し、分類体系利用方法の提案を行った 分類体系 Uniclass2015 日本語訳を公開し、パブリックコメントを実施(R2年12月～R3年1月)して、部会4の活動内容周知を図るとともに、Uniclass2015日本語版の翻訳精度向上を行った	S2 および S3 段階において、国際的な分類体系を日本の既存の分類体系に対応した形で活用し、BIMデータを用いた建築コストの概算手法を確立するための分類体系の対応表を作成し、コスト概算手法の技術的仕様の検討を行った。 併せて、設備分野の専門的知識を持つ者が、建築物のBIMデータ等を活用することにより設備分野のコスト概算が把握できる手法を確立するための事例を収集・整理し、建築分類コード体系を利用したコスト概算手法の整理を行った。	他部会と連携し、建築のみならず土木やインフラ分野への展開も見据えた物理的分類の共通認識を図るとともに、Uniclass2015の日本語訳を含めたその内容の精度を継続的に高めていく。	分類体系によって整理されたBIMデータが、建設業界全体の社会インフラとして整備されることを見据え、建設業界全体でデータを効率的に利活用できるよう、部会4で抽出された課題等を業界内の関係機関と共有しながら、より実践的な検証を重ねて、BIMの普及につなげていく。

## 部会4の活動報告および活動予定(建築BIM推進会議に2022年3月16日提出資料)

部会4	2022年度 (R4年度)
実施内容 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国交省や他の部会、関連団体等と連携</li> <li>・ 活動成果を市井に普及させるための活動を行う</li> </ul>
実施内容 (詳細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際標準に則ったBIMモデルの確定と普及啓蒙活動の展開</li> <li>・ より具体的なLOCやコストマネジメントにおける数量拾い、値入の考え方についての整理</li> <li>・ Uniclass2015の各テーブルに紐づく構成群を合成単価として整備</li> <li>・ 概算業務に役立てるためのパターン例示等の作成</li> </ul>
成果・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築のみならず土木やインフラ分野への展開も見据えた物理的分類の共通認識を図る</li> <li>・ Uniclass2015の日本語訳を含めたその内容の精度を継続的に高めていく</li> </ul>

## 部会4の活動報告および活動予定(建築BIM推進会議に2022年3月16日提出資料)

部会4	2023年度 (R5年度)
実施内容 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕様書作成ソフトウェアやそれに代替する分類体系入力支援ソフトウェアなどの検討を行う</li> </ul>
実施内容 (詳細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BIMオブジェクトとDOI、GUIDとの紐付け</li> <li>・ IFCやCDEなどデータ環境との相互リンク思想</li> <li>・ CI-NET分類、修繕計画用BELCA分類やIDEAライフサイクルアセスメント分類など</li> <li>・ 社会基礎情報としての活用を検討する</li> </ul>
成果・目標	<p>分類体系によって整理されたBIMデータが、建設業界全体の社会インフラとして整備されることを見据え、建設業界全体でデータを効率的に利活用できるよう、部会4で抽出された課題等を業界内の関係機関と共有しながら、より実践的な検証を重ねて、BIMの普及につなげていく。</p>

# フリーディスカッション

ご質問やご感想など、みなさまのご意見をおねがいたします。

# BSIJ協議会へのご参加、ありがとうございました

- 次回の開催は、2023年3月頃を予定しております。
- お問い合わせは、BSIJ協議会座長:森谷までお願いいたします。
- [moriya@bsij.or.jp](mailto:moriya@bsij.or.jp)